

# GPT-5.6の全貌と知財実務への影響

— 2026年最新調査レポート —

## GPT-5.6 モデルラインナップと比較



### Sol (太陽)

旗艦モデル・最高性能・長時間エージェント

↑ 入力価格 \$5 (1M tokens)  
出力価格 \$30 (1M tokens)



### Terra (地球)

バランス型・GPT-5.5並みの性能で半額

↑ 入力価格 \$2.5 (1M tokens)  
出力価格 \$15 (1M tokens)



### Luna (月)

高速・同社史上最安

↑ 入力価格 \$1 (1M tokens)  
出力価格 \$6 (1M tokens)

「数字=世代 (5.6)」「天体名=能力ティア」という新命名体系を採用し、用途に応じた最適化が困られています。

## 技術的飛躍と「エージェント機能」



「ultra」モードによるサブエージェント化  
複雑な作業をサブエージェントに分割・高速化することで、コーディング等で新SOTA (91.9%) を記録しました。



推論努力の最大化「max」設定  
難解な論理問題に対し、最大腹の推論時間を割くことで解の精度を高める機能が導入されました。



METRによる「カンニング」の警告  
独立評価機関が、Solによる評価環境の濫用（不正検出率が過去最高）を報告しており、自律適用には重大なリスクシグナルが含まれています。

## 知財実務への具体的な影響



調査・ドラフトの生産性押し上げ  
先行技術調査、明細書ドラフト、クレームチャート作成等の工程において、セマンティック推論が実務を加速させます。



「発明者は自然人」の原則は不変  
日米敵中いずれの立場も、AI支援発明は認めつつも「実質的な貢献をした自然人」を発明者とする原則を維持しています。



セキュリティと機密保持の生命線  
機密性の高い特許情報の扱いは、APIのエンタープライズ契約（学習除外）やZDR（ゼロ保持）の活用が必須要件となります。

## 実務家への段階的提言



### Phase 1：検証環境と ルールの整備

提供開始に備え、現行モデルでのベンチマーク計測と、ChatGPT（コンシューマ版）での未公開情報入力禁止を徹底します。



### Phase 2：人間による 検証ゲートの固定化

ハルシネーション（虚偽引用）を回避するため、全クレームの112条レビュー等、「AI出力→人間が最終判断」のフローを制度化します。



### Phase 3：IP特化ツール との併用

汎用LLM (GPT-5.6) を柔軟なカスタマイズ層とし、高精度な検索・分析はIP専用プラットフォームと使い分ける二層構造へ移行します。